

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）
分担研究報告書

国による自治体の疫学調査支援についての自治体側からの有用性評価手法に関する研究

研究分担者	森永 裕美子	国立保健医療科学院生涯健康研究部
研究分担者	中瀬 克己	岡山大学医療教育統合開発センター
研究分担者	松井 珠乃	国立感染症研究所感染症疫学センター
研究協力者	神谷 元	国立感染症研究所感染症疫学センター
研究代表者	齋藤 智也	国立保健医療科学院健康危機管理研究部

研究要旨：国立感染症研究所が実施する自治体への実地疫学調査支援について、自治体にとってのその支援の有用性の評価は包括的には行われていなかった。本研究では、国と地方自治体の連携体制を評価する試みの一環として、実地疫学調査支援について、その有用性を評価する手法の検討を行った。今年度は、初年度に作成し、試用し改良した質問票（案）を使用し、ヒアリングによる試行を行ってその項目の有用性の評価と改善を実施した。

A. 研究目的

自治体からの依頼に基づき国立感染症研究所から年間数事例程度、実地疫学調査支援を行っているが、自治体にとっての、その支援の有用性の評価は包括的には行われていないのが現状である。

厚生労働科学研究 「新興・再興感染症のリスク評価と危機管理機能の確保に関する研究（H28-新興行政一般-002）」においては、新興・再興感染症が侵入した際を想定し、国や地方自治体における対応体制リスク評価（脆弱性評価）を行い、危機管理で確保すべき機能を明らかにするための情報収集等が行われている。

今回は、この研究班の活動の一環として、実地疫学調査支援の枠組みにおける国と地方自治体の連携体制を評価することとした。WHO西太平洋地域事務局が作成したドラフト版のアウトブレイクレビューの手引き（非公開）も参照しながら初年度は、評価手法を確立する目的を主とし、パイロット調査を実施し、その項目の有用性の評価と改善

を実施した。本年度は、初年度に作成し、試用し改良した質問票（案ver2）を使用し、ヒアリングによる試行を行ってその項目の有用性の評価と改善を実施することを目的とした。

B. 研究方法

1. 対象事例の選定

担当者が異動している可能性も考慮し、今年度内（あるいは1年以内）に実地疫学調査支援を行った事例のうち当該自治体の協力が得られる事例として、「新興・再興感染症」のコンテクストに近い感染症として、昨年と同様、排除が達成された麻しんを第一選択とした。

2. 評価の方法

中立な第三者の調査員（複数人）が赴いて、質問票（案ver2）（添付資料1）を作成し、当該事例に対処した自治体関係者に対して聞き取り調査を実施した。

調査員の満たすべき要件は、当該事例の調査・対応に関わりがないこと、行

政の仕組みについて十分な知識があること、実地疫学調査の手法について知識があることとした。

ヒアリング対象者には、事前に調査票を送付した。ヒアリング実施後、KPT法（Keep（上手く行ったこと、今後も継続すること）Problem（課題や問題点）Try（今後実行すべきこと））に分けて分析する手法）を用いて、疫学調査支援に関する課題等を整理・分析した。

3. 質問票の改善

ヒアリングでの試行内容を踏まえ、質問票の改善を実施する。

（倫理面への配慮）

調査結果を公表する際には、当事者の了解をとること、事例や個人を特定されないようにすることとした。本研究は、動物実験の実施を含まない。また、個人情報等を扱う性質のものではなく、特段倫理的配慮を必要とする事項はない。

C. 研究結果

1. 対象事例の選定

条件に合致するアウトブレイクとして、平成29年2月に三重県松阪・伊勢・津地域における麻疹アウトブレイクを選定し、当時対応にあたった疫学支援チームからヒアリングへの協力を依頼した。

本対象事例では、国立感染症研究所派遣チームは、最初の患者（インデックスケース）の探知と共に、三重県から相談を受け、探知から4日後から松阪保健所職員と共に約2週間に渡って活動を行っていた。具体的な技術支援としては、

- ・情報整理
 - ・接触者調査
 - ・院内感染対策
 - ・地域の感染対策
 - ・情報提供・コミュニケーション
- に関する支援が行われた。

2. ヒアリング実施者の選定

研究班の班員で条件に合致するのは3名（中瀬、森永、齋藤）だが、スケジュールの都合上、齋藤のみがヒアリング実施者として参加した。

3. ヒアリングの実施

ヒアリングは、平成29年3月27日に三重県庁にて行われた。ヒアリング対象者として、松阪保健所植嶋所長ほか当時対応にあたった2名にご協力いただいた。冒頭に齋藤から経緯及び当日のアジェンダに関して説明後、事前に送付した質問票に沿って、ヒアリングを実施した。ヒアリングは約1時間半かけて実施した。本調査支援は非常に連携が有効であった支援であることが確認され、強みが明らかであったが、今後より連携を強固にする余地があると考えられた（表1）。

4. 質問票及びヒアリング実施方法への指摘事項

質問票及びヒアリング実施方法について、特段変更すべき点等の指摘は無かったが、ヒアリングでの試行内容を踏まえ、構成上冗長な部分を削除し、また、汎用性を高めるための軽微な修正を行い、調査票案 ver3 とした（添付資料）。

D. 考察

本事例は、前回のヒアリングに続いて派遣依頼自治体から感染疫学調査支援チーム（調査支援チーム）は高い評価を受けていた事例だった。しかし、前回の事例とは異なり、受け入れ側が、調査支援チームの業務内容や役割分担を派遣前から厳密に明確化していたわけではなかった。しかし、良き助言者・支援者として現場の対応者から高い信頼を得て支援を行っていたことが明らかであった。調査支援チームの圧倒的な専門的知識と経験、プロフェッショナルリズムがその背景にあったと考えられた。また、今回は複数の保健所圏域

が関係する事象であったが、県内の連携体制が良好であったことも、支援チームが支援しやすい要因だった可能性がある。

迅速な派遣が実現した背景としては、2016年に伊勢志摩サミットを経験して、ベースとなる信頼関係が感染研との間に醸成されていたことがあるだろう。そのため、アウトブレイクの探知後すぐから感染研への「相談」が行われて、派遣の手続きもスムーズに進行し、早期に派遣を実現できたと考えられる。

今後は、受援経験を県内のアウトブレイク対応体制の底上げ等につなげていくことが望まれる。支援後も感染研は受援県との関係を継続する中で、感染研からの提供テンプレートの県内での継続的・効果的な活用、そしてアウトブレイク対応体制の底上げ等につなげていく、「受援経験が活かされる仕組み作り」についても検討すべきであろう。

今回は本来複数人でヒアリングすべきところを、スケジュールの都合から1名になってしまったことが反省点である。評価に関するバイアスを極力避けるためにも、次回は複数人でのヒアリング体制を取るようにしたい。

今回は、評価者はFETPの活動内容について事前に知り得た情報は、事前情報による評価のバイアスを極力避けるためにホームページで公表した限られた情報のみであったが、その他の調査背景について、どの程度事前に情報提供を頂くかについても検討が必要である。

これまで、調査支援チームの受け入れが非常に成功した事例を評価しているが、質問票も固まってきたところであり、そうとは言えなかった事例についてもさらなる試行を検討し、質問票をセットするとともに、外部評価枠組みの提案を行っていく。

E. 結論

国立感染症研究所FETPにより実施した実地疫学調査支援についての自治体側からの有用性評価手法について、初年度に作成し、試用し改良した質問票（案）を使用し、ヒアリングによる試行を行ってその項目の有用性の評価と改善を実施することができた。

調査にご協力いただいた三重県松阪保健所 植嶋所長、三重県健康づくり課 星野課長、三重県津保健所佐藤主査、にこの場を借りて感謝を申し上げる。

G. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
特に無し

2. 実用新案登録
特に無し

3. その他
特に無し

添付資料

1 質問票(案 ver2)
2 質問票(案 ver3)

表1 KPT法による本事例の分析

KEEP（今後も継続すべき事項）	TRY（今後実行すべき事項）
<ul style="list-style-type: none"> ・高い技術とプロフェッショナリズム ・すぐ使えるテンプレートの提供 ・気軽に相談できる体制 ・FETP 研修生への強固なサポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・アトリーチによる事前の協力ベースの拡大 ・疫学調査支援活動に関する周知 （例：実際の支援活動のケースブックの作成など） ・要請手順の書式・フローの周知 ・支援ツールボックスの提供
<p>PROBLEM（問題点）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・疫学調査支援の具体的な活動内容が周知されていない 	

質問票

1 国立感染症研究所 FETP からの保健所に対する技術支援について

1.1 総論

1.1.1 技術的支援は具体的にどのような内容を期待していましたか。

何が要請するきっかけになり、また、なぜその項目の支援要請を行いましたか。

(自由回答)

1.1.2 どのような技術的支援を受けましたか？

- ・ 情報整理
- ・ 接触者調査
- ・ 院内感染対策
- ・ 地域の感染対策
- ・ 情報提供・コミュニケーション
- ・ 長期的対策
- ・ その他 ()

1.1.3 事例対応における保健所の意思決定において、技術的支援は有用でしたか。

(はい、いいえ)

どのような点で有用でしたか？

1.2 技術的支援の有用性について

(1.1.2 で「支援を受けた」とした内容についてご回答ください)

1.2.1 情報整理

情報の整理、資料作成の支援（ラインリスト作成、中間報告用スライド、Q and A）は有用でしたか。

(はい、いいえ)

どのような点で有用でしたか？

1.2.2 接触者調査

接触者調査の実施に関する技術支援は有用でしたか

(はい、いいえ)

どのような点で有用でしたか？

1.2.3 接触者のリスク評価（リストアップ、対策の優先度、医学的予防的措置（緊急ワクチン接種の対象者の設定等））に関する技術支援は有用でしたか （はい、いいえ）
どのような点で有用でしたか？

1.2.4 院内感染対策
院内感染対策の改善に関する技術支援は有用でしたか （はい、いいえ）
どのような点で有用でしたか？

1.2.5 地域の感染対策
地域の感染拡大防止対策（ワクチンキャンペーン等）に関する助言は有用でしたか
（はい、いいえ）
どのような点で有用でしたか？

1.2.6 情報提供・コミュニケーション
地域への情報提供、またその手法に関する助言は有用でしたか （はい、いいえ）
どのような点で有用でしたか？

1.2.7 リスクコミュニケーション（プレス、HPへの公開）に関する助言は有用でしたか
（はい、いいえ）
どのような点で有用でしたか？

1.2.8 長期的対策（行動計画への反映等）
長期的な対策の策定に（院内感染対策マニュアル、ガイドライン）に関する技術支援は
有用でしたか （はい、いいえ）
どのような点で有用でしたか？

1.2.9 その他

2 国立感染症研究所 FETP と保健所との連携について

- 2.1 保健所職員に FETP の役割が十分に伝わっていましたか (はい、いいえ)
いいえの場合；改善すべき点
- 2.2 FETP の保健所職員とのコミュニケーションはスムーズでしたか (はい、いいえ)
いいえの場合：改善すべき点
- 2.3 FETP と保健所の情報共有はスムーズでしたか (はい、いいえ)
いいえの場合：改善すべき点
- 2.4 FETP は保健所の情報管理の規定を遵守できていましたか (はい、いいえ)
いいえの場合：改善すべき点
- 2.5 FETP は保健所が決めた業務期限を守れていましたか (はい、いいえ)
いいえの場合：改善すべき点
- 2.6 FETP はチームの一員として機能していましたか (はい、いいえ)
いいえの場合：改善すべき点

3 実地疫学調査派遣に伴う事務的手続きについて

- 3.1 支援要請から支援開始までの時間は満足するものでしたか (はい、いいえ)
いいえの場合；どれくらいの時間が適切、もしくは許容範囲か
- 3.2 派遣期間は適切でしたか。 (はい、いいえ)
いいえの場合；長すぎる、短すぎる理由
- 3.3 支援要請の手続きや方法はわかりやすかったですか (はい、いいえ)
いいえの場合；改善すべき点：
- 3.4 支援に必要な書類作業は負担となりましたか (はい、いいえ)
はいの場合；改善すべき点：
- 3.5 費用負担がありましたか (はい、いいえ)
はいの場合；どのような費用負担があったか：
- 3.6 支援中のF E T Pの世話が負担となりましたか。(送迎 etc.) (はい、いいえ)
はいの場合；どのような点が負担となったか
- 3.7 病院に感染研職員およびF E T Pを常駐させることについて、病院側との交渉についての問題はありましたか (はい、いいえ)
はいの場合；どのような点が負担となったか：

4 その他（自由回答）

- 4.1 支援前と支援後で FETP のイメージは変わりましたか（期待していたが支援がなかったこと、期待はしていなかったが有用であったこと等）（はい、いいえ）
はいの場合：具体的に
- 4.2 支援を受けたことで、保健所として今後の感染症アウトブレイク対応に生かせる部分がありましたか。（はい、いいえ）
はいの場合：具体的に
- 4.3 FETP の支援を受けた調査を経験して、次回以降のアウトブレイク対応計画を変更する予定がありますか。変更する場合、どのような点を変更する予定ですか。（はい、いいえ）
はいの場合：具体的に
- 4.4 中間報告や最終報告のタイミング、報告書の提出期限などについて御意見があればお願い致します。
- 4.5 同じ自治体から派遣されている FETP の存在は有用でしたか。また、どのような点で有用でしたか（はい、いいえ）
はいの場合：具体的に
- 4.6 今回の FETP による支援事例を経験して、自治体からの FETP 参加（研修プログラムへの派遣）についてより積極的な意図が生まれましたか？
- 4.7 そのほか、支援を依頼して良かった点、悪かった点、改善してほしい点を挙げてください。

質問票

1 国立感染症研究所 FETP からの保健所に対する技術支援について

1.1 総論

1.1.1 技術的支援は具体的にどのような内容を期待していましたか。

何が要請するきっかけになり、また、なぜその項目の支援要請を行いましたか。

(自由回答)

1.1.2 どのような技術的支援を受けましたか？

- ・ 情報整理
- ・ 接触者調査
- ・ 院内感染対策
- ・ 地域の感染対策
- ・ 情報提供・コミュニケーション
- ・ 長期的対策
- ・ その他 ()

1.2 技術的支援の有用性について

(1.1.2 で「支援を受けた」とした内容についてご回答ください)

1.2.1 情報整理

情報の整理、資料作成の支援（ラインリスト作成、中間報告用スライド、Q and A）は有用でしたか。 (はい、いいえ)

どのような点で有用でしたか？

1.2.2 接触者調査

接触者調査の実施に関しての技術支援は有用でしたか (はい、いいえ)

どのような点で有用でしたか？

1.2.3 接触者のリスク評価（リストアップ、対策の優先度、医学的予防的措置（緊急ワクチン接種の対象者の設定等））に関しての技術支援は有用でしたか (はい、いいえ)

どのような点で有用でしたか？

1.2.4 院内感染対策

院内感染対策の改善に関する技術支援は有用でしたか (はい、いいえ)
どのような点で有用でしたか？

1.2.5 地域の感染対策

地域の感染拡大防止対策（ワクチンキャンペーン等）に関する助言は有用でしたか (はい、いいえ)
どのような点で有用でしたか？

1.2.6 情報提供・コミュニケーション

地域への情報提供、またその手法に関する助言は有用でしたか (はい、いいえ)
どのような点で有用でしたか？

1.2.7 リスクコミュニケーション（プレス、HPへの公開）に関する助言は有用でしたか

(はい、いいえ)
どのような点で有用でしたか？

1.2.8 長期的対策（行動計画への反映等）

長期的な対策の策定に（院内感染対策マニュアル、ガイドライン）に関する技術支援は
有用でしたか (はい、いいえ)
どのような点で有用でしたか？

1.2.9 その他

2 国立感染症研究所 FETP と保健所との連携について

- 2.1 保健所職員に FETP の役割が十分に伝わっていましたか (はい、いいえ)
いいえの場合；改善すべき点
- 2.2 FETP の保健所職員とのコミュニケーションはスムーズでしたか (はい、いいえ)
いいえの場合：改善すべき点
- 2.3 FETP と保健所の情報共有はスムーズでしたか (はい、いいえ)
いいえの場合：改善すべき点
- 2.4 FETP は保健所の情報管理の規定を遵守できていましたか (はい、いいえ)
いいえの場合：改善すべき点
- 2.5 FETP は保健所が決めた業務期限を守れていましたか (はい、いいえ)
いいえの場合：改善すべき点
- 2.6 FETP はチームの一員として機能していましたか (はい、いいえ)
いいえの場合：改善すべき点
- 2.7 どのようにすればもっと連携を強化することができたと思いますか

3 実地疫学調査派遣に伴う事務的手続きについて

- 3.1 支援要請から支援開始までの時間は満足するものでしたか (はい、いいえ)
いいえの場合；どれくらいの時間が適切、もしくは許容範囲か
- 3.2 派遣期間は適切でしたか。 (はい、いいえ)
いいえの場合；長すぎる、短すぎる理由
- 3.3 支援要請の手続きや方法はわかりやすかったですか (はい、いいえ)
いいえの場合；改善すべき点：
- 3.4 支援に必要な書類作業は負担となりましたか (はい、いいえ)
はいの場合；改善すべき点：
- 3.5 費用負担がありましたか (はい、いいえ)
はいの場合；どのような費用負担があったか：
- 3.6 支援中のF E T Pの世話が負担となりましたか。(送迎 etc.) (はい、いいえ)
はいの場合；どのような点が負担となったか
- 3.7 (該当する場合) 病院 (ほか民間施設等) に感染研職員およびF E T Pを常駐させることについて、病院 (ほか民間施設等) 側との交渉についての問題はありましたか (はい、いいえ)
はいの場合；どのような点が負担となったか：

4 その他（自由回答）

- 4.1 支援前と支援後で FETP のイメージは変わりましたか（期待していたが支援がなかったこと、期待はしていなかったが有用であったこと等）（はい、いいえ）
はいの場合：具体的に
- 4.2 支援を受けたことで、保健所として今後の感染症アウトブレイク対応に生かせる部分がありましたか。（はい、いいえ）
はいの場合：具体的に
- 4.3 FETP の支援を受けた調査を経験して、次回以降のアウトブレイク対応計画を変更する予定がありますか。変更する場合、どのような点を変更する予定ですか。（はい、いいえ）
はいの場合：具体的に
- 4.4 中間報告や最終報告のタイミング、報告書の提出期限などについて御意見があればお願い致します。
- 4.5 （該当する場合）同じ自治体から派遣されている FETP、あるいは同じ自治体に勤務する FETP 卒業生の存在は有用でしたか。また、どのような点で有用でしたか
（はい、いいえ）
はいの場合：具体的に
- 4.6 今回の FETP による支援事例を経験して、自治体からの FETP 参加（研修プログラムへの派遣）についてより積極的な意図が生まれませんか？
- 4.7 そのほか、支援を依頼して良かった点（特に技術的事項以外の点）、悪かった点、改善してほしい点を挙げてください。

